



【調査の概要】 *「全国」は「全国・公立学校」の結果を、「大阪府」は「大阪・公立学校」の結果を表しています。
 ○実施日：令和3年5月27日(木)
 ○実施校数・実施児童生徒数 小学校：41校(6年生)・2,859人 中学校：18校(3年生)・2,754人
 ○学力に関する調査
 小学校：国語・算数 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査
 児童生徒質問紙調査
 中学校：国語・数学 学校質問紙調査

【調査結果の取扱い】
 本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないように十分配慮をお願いいたします。
 調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。
 なお、文部科学省では市町村や都道府県の平均正答率を整数で発表することとなり、本市でも平成31年度より整数での公表としました。

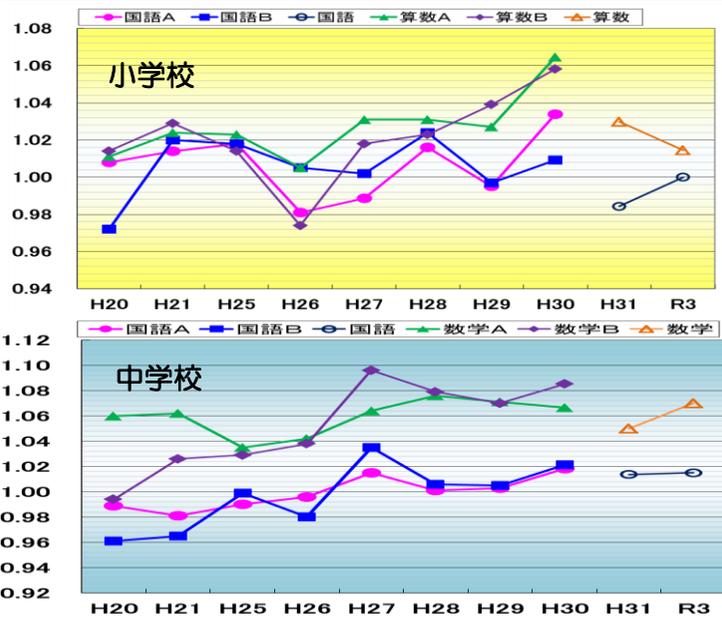
小学校

校種・教科別正答率(全国比・大阪比)

	教科	令和3年度				
		高槻市	大阪府	全国	差(対大阪)	差(対全国)
小学校	国語	65	63	65	2	0
	算数	71	70	70	1	1
中学校	国語	66	62	65	4	1
	数学	61	56	57	5	4

経年比較(全国比 H20-R3)

中学校

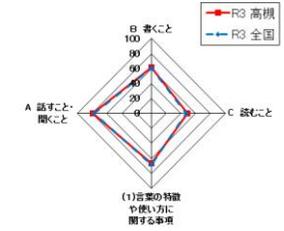


正答数分布・領域等別正答率 / 対全国比

国語

設問数 14問

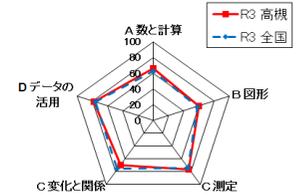
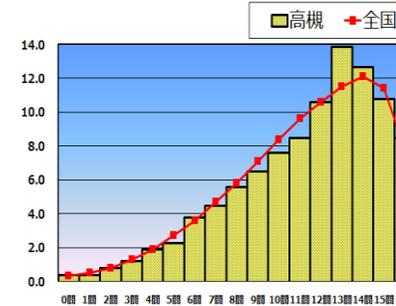
領域等別結果について「話すこと・聞くこと」領域「書くこと」領域「読むこと」領域においては全国平均値を上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均をやや下回っている。
 目的を意識して、中心になる語や文を見付けて要約するような問いや、漢字を文の中で正しく使ったり、主語・述語や修飾語・被修飾語との関係を捉えたりする問いに対して課題が見られる。



算数

設問数 16問

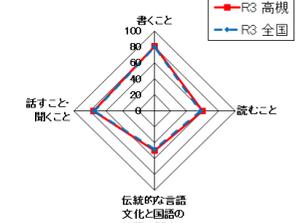
領域等別結果について、「数と計算」領域、「図形」領域、「測定」領域、「データの活用」領域では、全国平均値を上回っている。しかし、「変化と関係」領域では、全国平均値を下回った。
 求め方やその答え、数理的な事柄が成り立つこと理由を説明するような記述形式の設問に対する正答率は、他の設問と比較すれば高くはないが、全ての設問において全国・府平均を上回っている。



国語

設問数 14問

領域等別結果について、「話すこと・聞くこと」領域、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では全国平均値とほぼ同様であるが、「書くこと」領域、「読むこと」領域では、全国平均値を2ポイント程度上回っている。
 その中でも「書くこと」、「読むこと」領域の記述問題は全国平均を大きく上回っており、記述問題の無解答率も全国平均値より3ポイント程度低くなっている。一方、話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える問いや、相手や場に応じて敬語を適切に使うような問いに対して課題が見られる。



数学

設問数 16問

表やグラフの読み取りだけの問題にとどまらず、調査の計画や分析、結論づけ、再調査といった手法で問題解決を図ることを中心とした内容であった。知識を問う問題の正答率については、概ね高い傾向にあったが、数学的に説明・表現する問題の正答率については低い傾向にあった。
 学習指導要領の領域の状況においても「数と式」「図形」「関数」については、府・全国比で2.8~8.3ポイント上回っているが、「資料の活用」については、全国平均を0.3ポイント下回っている。

